

第3編 現代の歩み

自動車等の登録状況 昭和四十六年三月三十一日現在

総 数	貨 物		乗 用		特 殊	二 輪
	大 型	小 型	軽 四	普 通	軽	
二、八六五	六四	五二一	四八一	三五三	二四三	二〇
						一、一七四

平成二年三月三十一日現在

総 数	貨 物	乗 合 (バス等)		乗 用		特 殊	二 輪
		普 通	軽	大 型	小 型		
一一、三八七	一、一六六	二四	四、一二五	二、八九二	一九六	二二	二、九六三

今は高松東バイパスを早期に着工し、一日でも早く完成して、国道二一号より長距離輸送車両が少しでも減少することが強く望まれている。

2 鉄 道

JRの高徳線で、高松—志度間が開通したのは大正十四年(一九二五)八月一日であり、全線開通は昭和十年(一九三五)三月二十日である。本町に汽車が通るようになったが、残念ながら停車駅は一つもなく、交通事故の発生と、ばい煙、騒音などの被害で、沿線住民の大部分は高松に出る場合は利用できず、むしろ迷惑がっていた。八栗口(昭和三十六年九月一日開業)、讃岐牟礼(昭和六十一年十一月一日開業)の両駅が設けられて、よう

やく通勤・通学に利用できるようになった。また、高松北高校の誘致開校にも一役買い現在に至っている。

琴電志度線の開通は古く、明治四十四年(一九一一)十一月十八日である。当初は讃岐電鉄であったが、大正五年四国水力の経営となり、今までの人力車、乗合馬車に代わって大量輸送、定時発着は社会生活の近代化の先端をいった。戦時中の企業整備により昭和十八年(一九四三)十月から、高松琴平電鉄となり現在に至っている。しかし、戦時下の政策で、八栗—志度間が昭和二十年一月二十六日から運転休止、線路は撤去されたが、二十四年十月九日待望の運転が再開され今日に至っている。駅が多いため住民の身近な交通機関であるが、スピードが今一つである。

八栗登山鉄道は昭和六年(一九三一)二月十五日に開業し、八栗寺参詣の人びとを運んだが、この鉄道も昭和十九年線路が撤去されて休業、昭和三十九年十二月二十八日再開、今日に至っている。

3 バス路線

昭和五年(一九三〇)ごろから庵治—高松間に個人経営のバスが運行されていたが、企業整備により同十八年十二月から琴電の経営路線となって現在に至っている。便利な自家用乗用車の普及で利用者は一段と減り、運賃も電車に比べて割高である。一時期牟礼港線(役戸)もあったが現在は運休している。本町に通行している路線は次の五路線である。

庵治線・八栗ケーブル線・小田線・三本松線・特急高徳線